

## 7月定例活動

## 森の調査



トライアルサタデー第3回を兼ねたこの日の活動は、「森の調査」ということで参加者に木の実体を体験してもらいました。

まず、木はなぜ動かなくていいのか、葉っぱはなぜ緑色なのかなどQ&A形

式で木々に興味を持ってもらった後、コナラの木を一本選んで、全員が高さ、胸高直径、樹齢、重量、葉の数を予想して、各自のシートに記入しました。



▲木に関する質問に答える子ども達

くらぶメンバーから木の切り方の説明を受けて、一人一人が少しずつノコギリを入れて切り倒し、計測を開始。高さ12m、直径14cm、樹齢29年、重量107kgに関してはかなり近い数字を当てた子も数人いましたが、てこずったのは葉の数。先端に小さな樹冠が乗っただけの木だったので、参加者

のほとんどは3~4千枚と予想しました。そして、全員で数え始めたのですが、瞬く間に4千を超え、1万を超えても葉はまだ枝に付いています。意地と根性で数え続け、結果は1万8千枚でした。くらぶメンバーにも、新鮮な驚きでした。

予想と実測値に近かった数の多い子から順に、森さん特製の竹クラフトを賞品にもらって、意気揚々と帰って行きました。(伊藤 晶)



▲切り倒したコナラを玉切りにしてバネばかりで重量を計測

## 8月定例活動

## 森のクラフト



40年、いや50年も昔のことか、直径10センチもある立派な竹を材料に

して物作りに挑戦するのは…。森のくらぶに参加させていただいて6度目の定例会はクラフト作りでした。

会場の都合により午前中のみで、各自好きなものを作るということでしたが、小生はどこから手をつけていいのかテーマすら見つからない状態。結局は初参加の3月、ご馳走になった青竹の卵焼き容器に挑むことにしました。

ところがいけません。かろうじてこれまで経験した竹伐りは直角に切る事、目指す物は斜めに伐らないと格好がつかえません。右往左往ぶりを見かねた森さんに手助けいただいたのはいいのですが殆ど出来上がってしまいました。

何か味付けをとその日教わったばかりの青竹の皮むきに挑み、結果は調理器具ならぬ花器もどきに変身した次第です。その後、置き台用に再度斜め伐りを試みましたが成果を眼にした家内の大笑いをご報告してお察しいただくことに致します。(早川)



▲見本として並べられた森さんの作品

## トライアルサタデー第4回

夏休みも終わりに近づいた8月29日、トライアルサタデーの最終回「竹のマイ箸を造ろう」が、相生小学校研修室で行われました。参加者はやや少なく

て11名。くらぶ員6名がお手伝いです。最初に森さんが本日の箸造りの説明をし、各自材料となる竹の端材と小刀を持って作業開始。初めは乾いた竹材だった為、小刀での加工がやりにくい

との声が出て、材料を半乾きのものに換えてから皆黙々と作業に取り組み、思い思いの作品が出来上がりました。自分の箸を造ってから、兄弟や父母の箸まで造る子や、菜箸造りに取り組む子などおいて、自分で自分の道具を造る楽しさを味わってもらえたと思います。

最後に、森さんから、お手本となる箸1膳がプレゼントされ、4回にわた

るトライアルサタデー「子供里山体験塾」は終了しました。講師のみなさんありがとうございました。(大館)

